

Ⅲ 情報ネットワーク館周辺での  
発掘調査の概要  
(0425・0525・0538調査地点)

本章では、情報ネットワーク館に関連して実施された立会調査のうち、発掘調査切替を行ったものについて遺構・遺物を報告する。なお、調査区の位置は図2を参照されたい。

なお、情報ネットワーク館関係では、本書で示したもののほかに、外構工事に伴う立会調査（0546地点）と、仮進入路設置工事（0508地点）、ぎ木補修工事（0550調査地点）を実施し、一部で包含層を下げて土師器・須恵器の小片を得たが、図化可能な遺物や遺構の検出はなかったため、本書では省略する。なお概要は、2004年度・2005年度の年報（熊本大学埋蔵文化財調査室年報11・12）に詳しいので、そちらを参照されたい。

## 1. 情報ネットワーク館事前工事に伴う立会調査(0425調査地点・図45)

### (1) 調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館新営工事に伴う発掘調査に先立ち、既設配管替え・樹木移植を行うために実施した立会調査である。なお、継続して本調査を実施したため、調査番号は情報ネットワーク館建設地点と同じ0425となっている。

### (2) 調査員・参加者

檀佳克・森川征子、森川護、森田登。(敬称略)

### (3) 調査の経過と概要

調査は2005年2月1・7～9日に工事掘削立会のもと実施した。うち、遺物包含層を掘削したのは、電気・水道管替えに伴う掘削であるA地点のみである。A地点は図書館駐車場の、黒髪北地区南端部にあたる箇所を東西方向に掘削を行い、深さ80～90cmで古代の遺物包含層である黒褐色混砂土(10YR2/2、II章の0425調査地点報告のIII層に該当)を検出した。更に10cm程包含層を下げる必要があったため、発掘調査に切替えて包含層を下げ、土師器・須恵器の小片が出土している。

また、掘削区東西端のハンドホール設置部分では、深さ150cmまで掘削を実施し、包含層下位の遺構面(IV層に該当)まで掘削が達したが、遺構は検出されなかった。

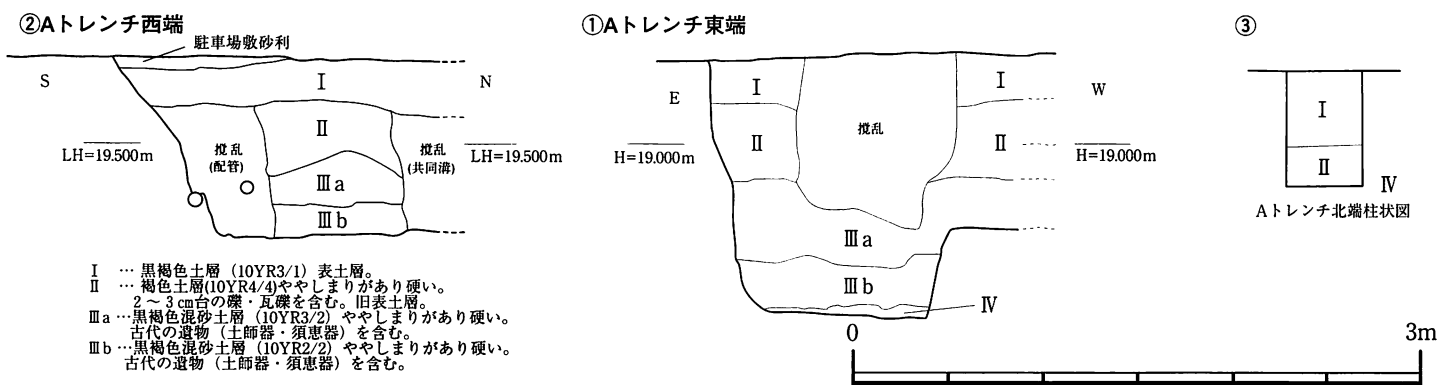


図45 情報ネットワーク館事前工事掘削区土層図 (S=1/40)

## 2. 情報ネットワーク館設備工事に伴う発掘調査（0525地点）

### （1）調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館設備工事として、污水配管を新設する工事に伴い立会調査を実施したものである。

### （2）調査員・参加者

檀佳克。

今村明美、児玉洋平、林貴暢、林田恵子、早田咲百合、福田久美子、堀川貞子、桃井哲夫、森川征子、森川護、森田登（敬称略）。

### （3）調査の経過と概要

黒髪北地区南端の赤門東側付近を、保健管理センター棟に沿って東西方向に掘削を行なった（位置は図2を参照）。調査区中央部分は配管等により攪乱を受けていたが、調査区西側では地表より120cmの深さで黒色混砂土層（10YR2/2・古代の包含層で、0425調査地点のⅢ層に該当する）を検出し、同層を東側では深さ90cmで検出した。包含層上面では遺構は未検出である。掘削区の東半部分は、工事に必要な深度が浅く、遺跡保存の措置をして掘削を終了した。掘削区西半部分では、施工に深い掘削が必要であり、包含層下位まで大きく掘削する必要が生じたので、発掘調査を実施した。黒色混砂土層を下げた後に、その下層（10YR4/3黄褐色混砂土層）上面で精査を行った。ピットが8基検出されたが、調査の結果すべて樹痕であると判断された。遺物は、縄文土器・土師器・須恵器が包含層より出土している。うち、図示出来た3点を示す（図46）。1は縄文土器で、外面口縁部付近には貝殻によると思われる縦方向の沈線文が施されている。縄文時代後期か。2は土師器の底部で、3は赤焼けの須恵器蓋である。

12月には、情報ネットワーク館への配管接続のため、東端の南北方向の掘削箇所で立会調査を行なった。深さ75cmで古代の遺物包含層（10YR2/1・黒色混砂土層）を検出した。排水枡設置部分のみ工事による影響があったので、包含層を掘り下げて数点の土器片が出土した。その下層（10YR3/4黄褐色混砂土、古代の遺構面）まで、あと数cmで到達するものと思われ、ピット状の遺構が2基検出されたが、施工に問題が無く、現状保存が可能であった為、砂を敷いて遺構を保護し施工するよう指示し、掘削を完了した。

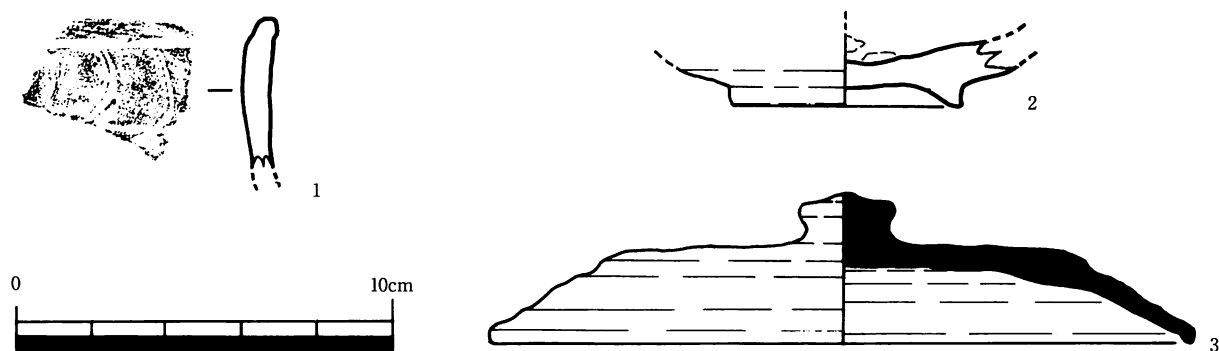


図46 0525地点包含層出土遺物実測図（S=1/2）

### 3. 情報ネットワーク館設備工事（追加）に伴う立会調査（0538地点）

#### （1）調査の目的

本調査は、情報ネットワーク館設備工事で追加申請されたものであり、ガス配管、雨水桝設置に伴う立会調査である。位置は図2を参照されたい。

#### （2）調査員

檀佳克。

#### （3）概要と検出遺構・遺物（図47）

ガス配管設置では、附属図書館北側から学生会館に向かい東西方向、および図書館西側に南北方向に掘削した。掘削時に60cm程度の掘削を実施したが、包含層を検出することなく工事が完了している。

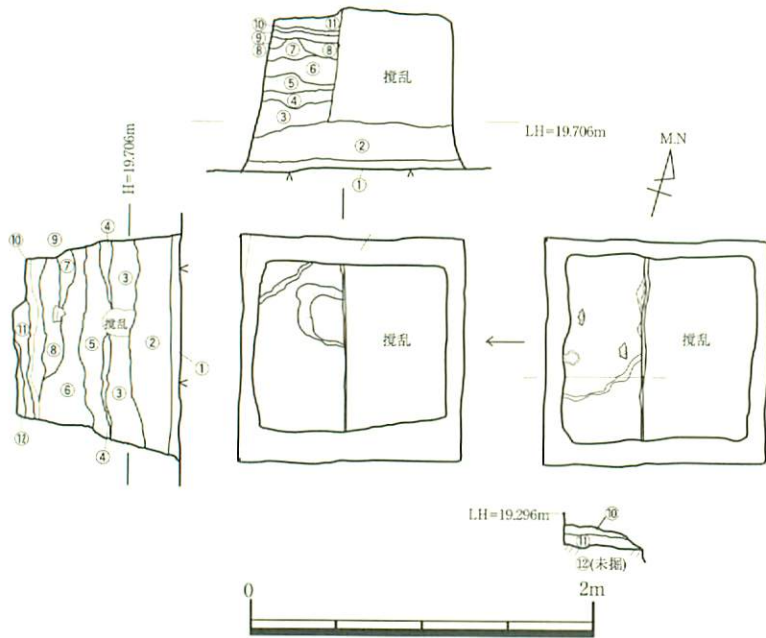
雨水桝設置に伴う掘削（現情報ネットワーク館西側排水桝設置箇所）では、0425調査地点西側に隣接して3箇所を桝設置のため深掘りしており、配管部分は25cmの掘削を実施し、包含層には達していない。桝設置箇所は1m近い深さの掘削を実施している。うち、北側の桝設置箇所は図書館建設による攪乱の範囲内で包含層・遺構面の検出はなく、南側でも包含層まで達することなく掘削を完了したが、中央の桝設置箇所では包含層に達したため、調査を実施している。

中央部分の桝設置箇所では、包含層が深さ65cmで検出されたため、発掘調査を実施した。調査区は1.5m×1.5m幅で、深さ90cmまでの掘削が必要であった。調査区の東側半分は共同溝設置時の攪乱で破壊されている。包含層を下げていくと、黄白色の粘土塊が検出され、粘土を残しながらさらに下げていくと、住居床面と思われる硬化面が検出された。粘土部分は竈である可能性を想定して掘削を行い、下位より焼土と灰層を検出している。調査区内では、支柱などと思われるものは出土しなかった。

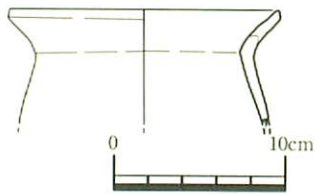
調査区内では硬化した床面が平坦に広がっており、壁面でも明確な燃焼面が確認できなかったため、竈本体の位置は調査区より西側に存在する可能性が高いと判断された。

なお、工事ではそれより下位までの掘削が必要であったため、さらに10cm程掘り下げを行っているが、地山面（0425調査区の基本土層Ⅳ層）に達し、竈穴住居址より下位の遺構・遺物の出土はなかった。

遺物は、竈穴住居址粘土部分から、土師器の破片が2点出土した。うち図化可能であった1点を示す。土師器の甕の口縁部片で、復元径からするとやや小型である。径の約1/5ほどが小片で残存している。内外面ともに橙色であるが、調整は残存が悪く詳細は不明である。下半部は不明であるが、胴部が張りやや下ぶくれ気味となる器形が想定される。出土状況からも、竈穴住居址に伴う可能性が高いと判断され、竈穴住居址の時期は8世紀前半であると思われる。



- ①-アスファルト舗装。
- ②-バラス層(アスファルト舗装時)。西側はやや白色、東側は若干黒色のバラス層である。
- ③-2種の黒色泥砂土(10YR2/1・10YR3/2)の泥土層。舗装前の旧表土層である。ややしまりが有り硬い。攪乱を受けており、古代～現代の遺物を含む。
- ④-黒色泥砂土層(10YR2/2)に、径1cm大の赤褐色のブロックを含む。ややしまりが有り硬い。攪乱層。
- ⑤-黒褐色泥砂土層(10YR2/1)。古代の遺物包含で、土師器や須恵器片を含む。
- ⑥-黒褐色泥砂土層(10YR2/2)であるが、やや白い印象を受ける。古代の遺物包含層で、土師器や須恵器を含む。
- ⑦-黒褐色泥砂土(10YR2/2)に、⑧層の粘土ブロックや焼土が混じる層。しまりはなく、やわらかい。
- ⑧-明黄褐色粘土層(10YR6/6)。やや硬くしまっている。竈材の粘土と思われる。
- ⑨-黒褐色泥砂土(10YR2/1)であるが、やや白い印象を受ける。しまりはなく、やわらかい。焼土や炭化物、灰が混じる。
- ⑩-黒褐色土層(10YR3/3~3/2)。かなり硬く硬化している。竈穴住居址の床面と思われる。
- ⑪-暗褐色粘土(10YR3/4)のブロックと黒褐色泥砂土(10YR2/2)との泥土層。あまりしまりはなくやわらかい。
- ⑫-暗褐色粘土層(10YR3/4)。古代の遺構面であり、地山である。



出土土器



住居検出状況(東より)

図47 0538地点柵部分調査区土層図と出土土器